

2020年1月12日（日）礼拝メッセージアウトライン 「破れ口に立つ」

聖書箇所：出エジプト32：31，32

タイトル：「破れ口に立つ」

テーマ：新しい年をむかえました。今年も様々な出来事が起こり、さらに時代も変化していくことでしょう。しかし、変わらぬものが確かに存在します。神の愛と恵み、さらに神の恵みを受けたクリスチャンの使命は変わることがないでしょう。

今日は、出エジプトのリーダーとして召命を受けたモーセが、一筋縄ではいかないイスラエルの民を導き、神に不従順を重ねるイスラエルの民をそれでも愛して、自分の命に代えても、破れ口に立って彼らを神の前にとりなしていく姿を見つつ、私たちクリスチャンに与えられた使命を再確認させていただきたいと思います。

1. 初めに

出エジプトを果したあと、神はモーセを通して律法と幕屋建設に関する命令と祭司職についての任命やその務めに関しての細々とした指示をイスラエルの民に与えようとされました。ところが、モーセが山で神と語っている間に、イスラエルの民は金の子牛を作って、それを神としてあがめて、神の前にとんでもない罪を犯していました。

モーセも大いに怒りますが、それでもモーセは民を滅ぼすと言われた神にイスラエルの民のためにとりなしの祈りを捧げるのです。

2. 「御前の破れに立つ」とは？

①招詞で読まれた詩篇106篇は出エジプトの出来事を記している。

23節 「・・・もし、神に選ばれた人モーセが、滅ぼそうとする激しい憤りを収めていただくために、御前の破れに立たなかったなら、どうなっていたことか。」

口語訳 「・・・しかし主のお選びになったモーセは、破れ口で主のみ前に立ち、み怒りを引き返して、滅びを免れさせた。」

②「破れ」の意味・・・英語「breach」（約束・契約の違反、不履行すなわち「罪」を意味する）

③モーセのとりなし

3. 新約に見る「破れ口に立った人」

①ステパノ（使徒7：55～60）

「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」（7：60）

②パウロ（ローマ9：2，3）

「私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから切り離されて、のろわれた者となってもよいと思っています。」（9：3）

4. イエス・キリストのとりなし（真の意味で破れ口に立った人）

①ルカ 23：34 とりなしの祈り

「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているかわかっていないのです。」

② I ペテロ 1：18, 19 捧げられた尊い血

「…あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは…傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの尊い血によったのです。」

③ヘブル 7：24, 25 大祭司として

「イエスは永遠に存在されるので、変わることがない祭司職を持っておられます。したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」

5. 結論

今、神の民、聖なる祭司とされているクリスチャンはいかなる使命を与えられているのか